

阿倍野再開発計画に便乗した 医学部の「合理化」を粉砕せよ!

■ 当局は全計画を教職員学生の前に公開せよ!

医学部の学生・教職員の皆さん!

現在、医学部当局は、医学部附属病院及び医学部の徹底した合理化、反動的再編成の計画を秘密裏に着々と準備している。この計画について、ほとんど秘蔵に押しつけておいて、我々にはつみかめていない。しかしこの問題のもっている重要性和、この計画が学生・教職員に対しては、全てを秘密の内に作成されており、そのことによりて事の重大さが隠されているという事態を考へる時、我々は学生・教職員の前に、この計画を暴露し問題点を指摘しなければならぬと考へる。

この計画というのは、市の阿倍野再開発計画の一環として、更には大阪メディカル・センター構想の一環として、現在の医学部を大巾に拡充しようというもので、(1) 外来部門の拡大(地下駐車場・中棟の拡大・コンピュータの設置)(2) 地下3階地上20階の病棟を建てられ、オニ新館と合わせてベッド数の大巾な拡大(約2000床位になると思われる。)(3) 外来ベッドのほとんどを関連病院として医学部から切り離す、そして大学院大学の設置等を主な内容としている。そ

そしてその問題とは ① ベッド数の増大、外来部門の拡大、中棟の拡充等もうなる部分をふやすことは、オニ新館の設立時と同様に、病院がますます営利化されることを意味する。そしてこのことは独立採算制の下での病院の建設費を借入によって賄われている。そして毎年それに利子をつけて返済していかなければならない。従って市民にできるだけ粗末な診療で、並に診療費を高くし利潤をあげていくことによりて、返済費をあてていかなければならない。その事によって増々営利化は促進されるであろう。② 教育・研究・診療という3つの機能をバランスをとって果していかなければならない大学病院の本来の目的から考へた場合、現在の状態でも多すぎる外来・ベッド数が過度にふえることは、教職・無給医・患

婦の受けもちベッド数を無条件に増加させ、もしは付け足しに余った部屋が研究室として開放されたとしても、教育・研究機能の低下をもたらすことは必至であり、診療の内容も不可避的に低下する。③ 教職・無給医・患婦の受けもちベッド数の増加することは、即ち労働条件が今よりさらに悪化することを意味する。④ 大学を関連病院として運営するということは、病院の管理運営権を医学部から切り離し、市の官僚が直接握ることにより合理化を徹底的に押し進める権力的保障としてある。⑤ この計画に中教審答申の大学院大学の設置が含まれることは、政府・独占の大学自治破壊策動、しいては教育の反動的帝国主義的再編合理化に手を及ぼすということの意味する。⑥ この計画が事務官僚と一部のボス教授が独裁的に作成し教授会ですらも討議されていないということは市大医学部においては教授会自治すらもなく、官僚とボス教授の支配という中教審答申の具体化が進んでいることを意味する。

医学部の教職員・学生の皆さん! 私達はこのような病院の反動的再編合理化の策動を決つて見のかしてはならない。正しい医療の発展のためにも注目する必要がある。そのためには、まず全計画を当局に公開せよとせなければならぬ。計画を公開させ、反動的策動を粉砕し医学部の民主的改変をもちとって行くそのような運動を創り出さなければならぬ。そのために、この問題について討論をただちに開始しなければならぬ。

全ての病院労働者・学生は団結し、市民の血と汗を吸収しながら、増々肥大して行く附属病院の反動的再編合理化を阻止しよう!

※ 裏に参考として 病院の「合理化」構想を記す。

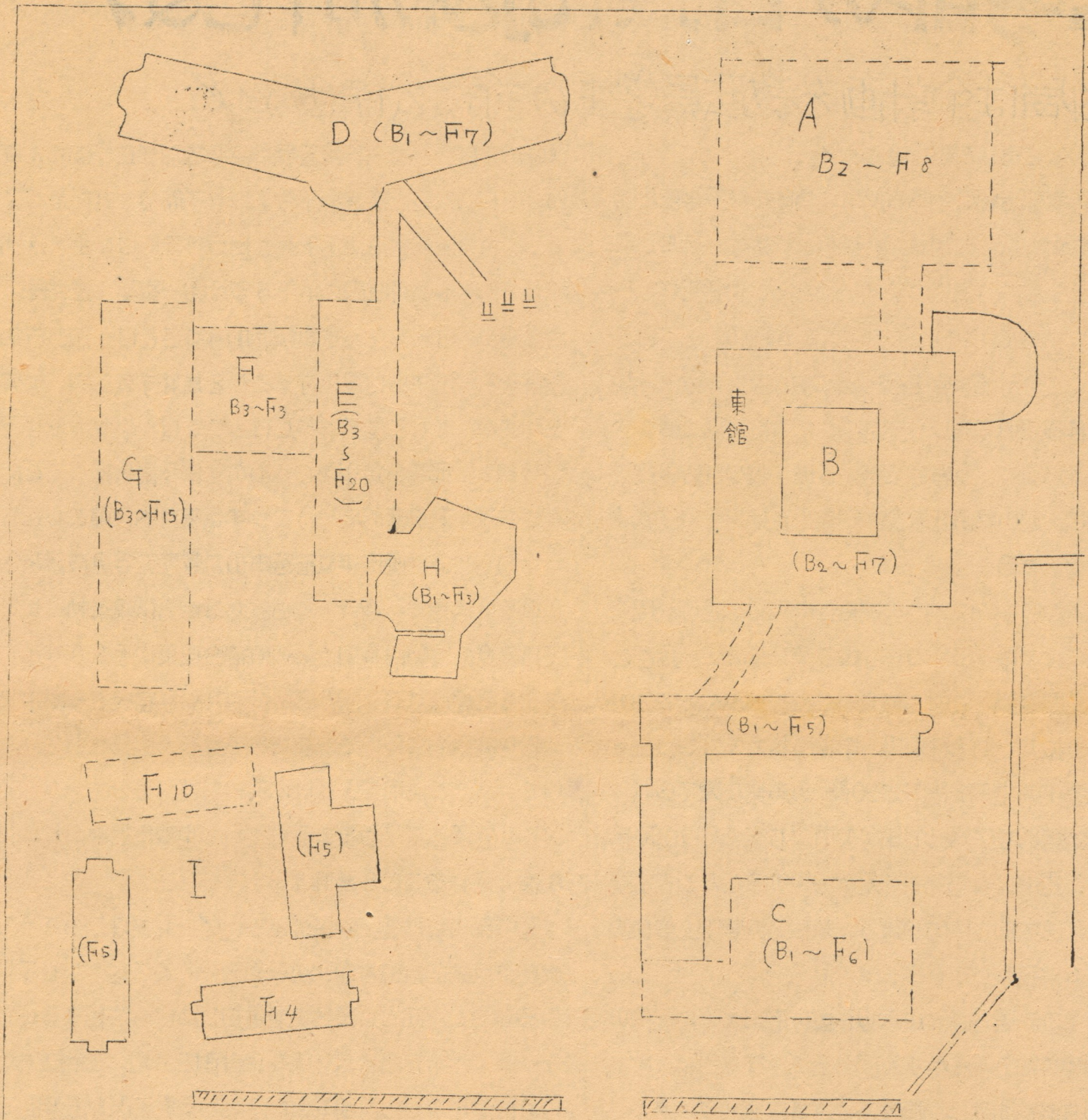
5/14

NO17

日本共産党学生同盟会

5/18

国道



- A 外来部門 (地下駐車場・中検 etc)
- B 今まで通り
- C 大学院大学
- D 臨床系研究・動物舎
- E 入院ベッド → 関連病院 (大学病院としてはBで十分)
- F 大構堂
- G 基礎、学院、技術家養成場